

## 一関文化賞表彰式典挙行

### 人づくり、生活・地域文化振興の活動を顕彰

## 式 辞

NPO法人一関文化会議所 理事長 内田 正好



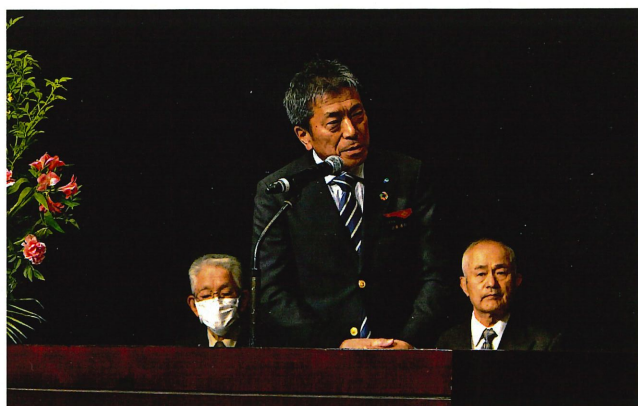
皆様、今日は。本日は御多用中にも拘らず、令和6年度第34回「一関文化賞」の表彰式にご出席下さり本当に有難うございます。また、ご来賓として一関市長佐藤善仁様を初め、たくさんの方々のご臨席を賜り心より感謝申し上げます。

現在世界情勢として、悲惨な戦争とかとんでもない事件や事故が発生し胸が傷むばかりです。そのような中、メジャーリーグの大谷選手の活躍は私たちの心を明るくし元気づけてくれました。正にスポーツの秋です。そして菊花薫る季節は文化の秋でもあります。こうして「一関文化賞」の表彰式を挙行できますことは大きな喜びで、平和の有難さや平穏の幸せを痛感させられるところです。

さて私共一関文化会議所では、「ふるさと創生」「文化の創造」を目的として、「潤いのあるまちづくり」を目指して各種事業に取り組んでおります。その中で顕彰事業としての「一関文化賞」は、文化・芸術の振興並びに活力のあるまちづくりや人づくりの分野で、着実にそして真摯な活動や研究を積み上げられた方々に心より敬意を表し顕彰させて戴いております。

今年度の「一関文化賞」は、人づくり部門「藤野静枝」様、生活文化部門花泉語り部の会「いずみの里」様、地域文化部門「佐久間溪雲」様そして「石川昇明」様です。それぞれの方々のご活動ぶりや輝かしいご功績につきましては、この後阿部奨励委員長から具体的に詳しくご紹介申し上げます。

本日受賞された方々は、今後さらに充実した活動に邁進され、当一関地方の歴史と文化の創造や継承発展のために益々ご活躍されることをご祈念申し上げます。私の式辞と致します。受賞された方々と関係者の皆様、本日は誠にありがとうございます。



祝辞を述べる佐藤一関市長



阿部奨励委員長がそれぞれの功績を紹介

## 令和6年度(第34回)一関文化賞

### 藤野静枝氏、花泉語り部の会「いずみの里」 佐久間溪雲氏・石川昇明氏 を表彰

奨励委員会 委員長 阿 部 了 子

第34回となる令和6年度一関文化賞の表彰式は、11月21日、一関文化センター中ホールを会場に執り行い、当地域において文化の振興に貢献された3個人1団体を表彰しその功績を讃えました。

式では内田理事長から受賞者に表彰状とトロフィーが手渡され、また、受賞者の皆さんからは、感謝と今後の活動の決意の言葉を頂くとともに、それぞれの活動などが発表されました。

今年度の受賞者の方々をご紹介します。



左から、藤野静枝氏、「いずみの里」藤堂ミキ子会長、  
佐久間溪雲氏、石川昇明氏

## 【受賞者の紹介】

### 一関文化賞「人づくり部門」

#### 藤野 静枝 氏

藤野静枝氏は一関市大東町で中華レストランを経営する傍ら、平成4年に人形劇サークル、平成6年には腹話術サークル「あのね」を設立し、代表として30余年児童福祉施設等でボランティア公演するなど活動を続けています。

また、諸外国では子どもたちが貧困等の事情により十分な学びの環境が得られていないと感じたことから、「夢や希望をもって前に進んでほしい」という強い意志のもと、平成6年より海外でも児童文化ボランティアとして積極的に活動しています。

これまで11か国（中国・スペイン・モロッコ・アル

ゼンチン・ボリビア・ペルー・フィンランド・ハンガリー・オランダ・クロアチア・リトアニア）で、腹話術人形の「ダイちゃん」とともに、小児病院・孤児院・幼稚園・小学校・障害児施設等を訪れ、その国の言葉による腹話術公演を通して、通算4万人以上の子どもたちと交流し、たくさんの笑顔に出会ってきました。

公演を行う際はまず、現地の日本大使館に手紙を書いて公演場所の紹介を依頼し、日本語の台本をその国の言葉に訳し、日常のあらゆる時間帯を活用してセリフの暗唱に努めるなどご苦労されており、現在は韓国での公演を目指して韓国語の習得等準備に取り組まれています。

国内においても子どもたちに国際交流にも興味を持ってもらいたいと、海外公演で感じたこと・体験したことを腹話術を通して積極的に伝えていきます。

藤野氏のこのような活動は、地域の子どもたちはもちろん国内外の子どもたちの健全育成に大いに貢献するものであり、その功績は多大なものがあります。



各受賞者の活動状況の展示に見入る参加者



「あのね」の会員と腹話術を披露する藤野さん(中央)

## 一関文化賞「生活文化部門」

### 花泉語り部の会「いずみの里」

花泉語り部の会「いずみの里」は、平成16年の旧花泉公民館「昔話語り部養成講座」参加者により結成され、現在は9名で活動しています。月1回定例会を開催し、地元の昔話を中心に持ち寄った資料のなかから自分に合ったものを選び習得に努めているほか、実際に昔話の現地を探訪したり、他の会と合同研修会を行うなど研鑽に励んできました。

近年では、活動の周知と会員増をねらいとして花泉図書館で「昔かたり」の公開を行っています。また社会福祉協議会の福祉啓発事業として、花泉町内5か所の保育園・子ども園でそれぞれ年2回昔話や紙しばい等を行っている他、町内の老健施設を訪問し活動しています。

平成17年、花泉町内の小学校からの依頼で始業前の時間に「昔かたり」を開始。初めのうちは座っていることも難しい児童も、回を重ねるうちに黙って聞き入るようになり、落ち着いて人の話が聞けるよう手助けできたことを実感します。

昔話には道徳的な教訓が込められたものも多く、かつて祖父母が寝物語に孫に聞かせ、一緒に人の道を考えさせる機会になっていたと言えるでしょう。会員の

皆さんは子どもの頃に聞いた時の「感動・ときめき」を今の子どもたちにも伝えたいと、昔話の内容を自分のものとし、自分の語り口で伝えられるように練習に励んでいます。この思いは、訪問先の園児にもしっかりと伝わっており、「お話おもしろかった」「次いつ来てくれるの?」と目を輝かせます。

子どもたちの健やかな成長を願い、ひたむきに日々研鑽に励んで地道に昔かたりを実践する「いずみの里」の活動は、次代を担う子どもたちが楽しみながら昔話の中から様々な学びを得ることができ、地域の歴史や土地ならではのならわしなどを後世に伝えていくことに大いに貢献するものであり、その功績は多大なものがあります。



花泉に伝わる昔話を語る会員の熊谷さん

## 一関文化賞「地域文化部門」

### 佐久間溪雲 氏・石川昇明 氏

両氏は、仏師佐久間白雲（本名茂）氏を父として大東町渋民に生まれ、ともに仏師の道を歩んでいます。

兄佐久間溪雲（本名純一）氏は、京都で父と同じ師匠のもとで修業後、ともに高村光雲の孫弟子として、父が開いた渋民の工房「黙笑庵」で専心努力されています。昭和51年に落慶の釜石大観音総門両脇には、父と溪雲氏の手による阿吽の二体の仁王像が安置されています。以後、平泉町達谷窟毘沙門堂の八尺大毘沙門天、蝦蟆（がま）ヶ池弁天堂の童子七体の修復や達谷西光寺金堂薬師如来像などを造像しました。

東日本大震災の折には、被災した寺に八体の仏像を納め、近年では、芦東山記念館に「芦東山木像」を寄贈して、当市の偉人顕彰にも貢献しています。

弟石川昇明（本名完二）氏は、京都で光雲の曾孫弟子として修行した後、運慶・快慶の流れをくむ慶派の大仏師にも師事。平成10年京都伝統仏像彫刻展にて十一面観世音菩薩像が京都市長賞を受賞されました。

帰郷後自身の工房を構え、県内外各地の仏像を修復しており、奥州市正法寺釈迦三尊仏や平泉町毛越寺の日光・月光菩薩等の修復も手掛けました。

東日本大震災直後はボランティアとして陸前高田市

を訪問し、津波でなぎ倒された松で17体の仏像を彫り、同市内の寺院に寄贈しています。

また、自身の修業時代の体験や出会などの講演内容を自費出版したり、高校生への講話や地元中学生の体験受け入れなどの人材育成にも貢献しています。

両氏は県内にとどまらず仏師としての確かな技術をもって、文化財等に指定される貴重な仏像にも、文化財等に指定されていないが地域の人々が生活の中で脈々と祈りをささげてきた身近なお寺の仏像にも、いわば以後1,000年の命を吹き込んでいます。

父の姿を見て育ち、遺志を受け継いだ両氏は、東北には数少ない仏師としてそれぞれ独自の活動でありながらも、地域の文化財の継承・保存や精神文化の継承に大いに貢献するものであり、その功績は多大なものがあります。

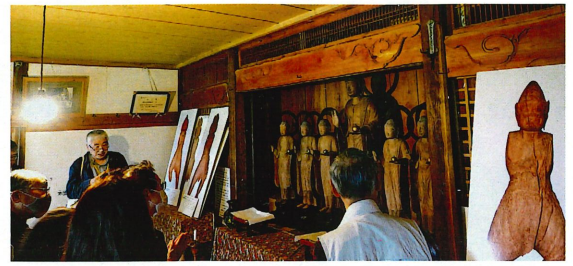


展示作品(一部) 佐久間さん作(左)・石川さん作

## 一関ふるさと学習院「平泉もう一つの世界 <sup>ひづめ</sup>比爪と平泉」

事業委員会 委員長 畠 山 篤 雄

比爪には平泉に比肩する格式と実力を有した権力が存在したとされ、近年の調査により新たな知見が積み重ねられています。受講した皆さんは、奥州藤原氏の時代の理解にまた一つ広がりを持てたのではないのでしょうか。受講者の熱心な参加の様子からも、興味を引くテーマであったと思います。紫波町教育委員会様のご協力に感謝申し上げます。



七仏薬師如来立像（赤沢薬師堂）

| 回 | 開催日    | 内 容                                            | 講 師                              | 受講者数 |
|---|--------|------------------------------------------------|----------------------------------|------|
| 1 | 6月13日  | 講座「平泉・比爪・鎌倉—御所の姿を探る」                           | 鎌倉市教育委員会 主事 鈴木弘太氏                | 45人  |
| 2 | 7月10日  | 講座「清衡公の世界へ」<br>平泉世界遺産ガイダンスセンター見学               | 平泉世界遺産ガイダンスセンター<br>上席専門学芸員 羽柴直人氏 | 40人  |
| 3 | 9月12日  | 講座「もう一つの平泉『比爪』」                                |                                  | 45人  |
| 4 | 10月16日 | 現地探訪「比爪を訪ねる」 見学先：紫波町<br>比爪館跡、正音寺、赤沢薬師堂、赤沢郷土資料館 |                                  | 42人  |

## 研修・視察事業「鉱山が遺した秋田の近代化産業遺産に学ぶ」

総務委員会 委員長 佐 藤 賢 治

7月3日、スタッフ含め80人で小坂鉱山の「レガシー」康楽館と旧小坂鉱山事務所（ともに国指定重要文化財）を訪れ、現在もまちづくりに活用されている施設を学んできました。康楽館では回り舞台など開館時から使われている設備の見学と折しも公演中の芝居も鑑賞でき、鉱山事務所ではガイドの案内により施設と鉱山の歴史について理解を深めることが出来ました。



康楽館では施設を見学し芝居も鑑賞

### 東大生出前科学授業

### 「実験で、より興味がわいた！」

子ども委員会 委員長 佐 藤 健 三

8月22日に萩荘、23日に一関東と川崎の各中学校に東京大サイエンスコミュニケーションサークル「CAST」メンバー8人が訪問し出前科学授業を行いました。

「見て、感じてより興味がわいた。」「まだ知らないことがたくさんある。」など理科、科学への関心が高まったとの感想や、大学生の質疑応答への受け答えなどから、「私も少しずつまねしたい。」「時間じゃなく質の良い勉強に取り組みたい。」との声もありました。



実験に思わず拍手（液体窒素ブース）

### 春休み親と子のコンサート

### 音楽の絵本

0歳から  
入場OK!



- ▶ 令和7年3月22日(土) 開演 午後1時
- ▶ 一関文化センター 大ホール
- ▶ 全席指定
- ▶ 大人券 1,400円 (当日1,700円)
- ▶ カンガルー券 1,400円 (当日1,700円)
- ▶ 子ども券(中学生まで) 600円 (当日 700円)
- ▶ 3歳未満は保護者1名につき1名まで膝上での鑑賞無料(カンガルー券をご購入下さい)
- ※ 席が必要な場合は子ども券をご購入下さい
- ▶ チケット：文化センターまたはインターネットで